

9580



傳情發第百五〇號  
三九七

月報提出ノ件報告

昭和十七年七月十八日

俘虜情報局長官 上村 幹 男

陸軍大臣 東條 英 機 殿

俘虜情報局月報第五號別冊ノ通提出ス



俘虜情報局

0357

極秘

第五號

俘虜情報報

昭和十七年七月五日

俘虜情報報局

## 目次

- 第一 一般的事項
- 第二 訓示
- 第三 俘虜收容所編成
- 第四 俘虜ニ關スル規定
- 第五 重要往復文書
- 第六 俘虜ノ收容移動
- 第七 俘虜ノ衛生
- 第八 俘虜勞役ニ關スル事項
- 第九 俘虜郵便
- 第十 敵國戰死傷者並行方不明者ニ關スル事項
- 第十一 俘虜救恤ニ關スル事項
- 第十二 抑留非敵國員ニ關スル事項
- 第十三 會計經理ニ關スル事項

第一 一般的事項

一 六月九日普通寺俘虜一五一名大阪ニ於ケル滯貨處理ノタメ同地ニ分遣セラレ

二 朝鮮、臺灣、泰、馬來、比島、爪哇、「ボルネオ」ニ俘虜收容所新設ニ決定ス

三 六月二十五、六日朝鮮、臺灣俘虜收容所所長及所員（分所所長豫定者）

ニ對シ俘虜情報局ニ於テ俘虜業務ニ關シ所要ノ（六月二十五日二十  
六日俘虜收容所所長會同席ニ於ケル配布書類ニ基ク）指示ヲナス

第二 訓示

一 五月三十日東條陸軍大臣普通寺師團視察ノ際同師團長ニ與ヘラレタ  
ル訓示中俘虜ニ關スル事項ノ拔萃左ノ如シ

「當師團長ニハ俘虜收容所カ設置サレテ居リマスガ、俘虜ハ人道ニ  
反シナイ限り嚴重ニ取締リ苟モ誤レル人道主義ニ陥リ又ハ收容久シ

キニ亘ル結果情實ニ陥ルカ如キコトノナイ様注意ヲ要シマス  
又我國現下ノ情勢ハ一人トシテ無爲徒食スルモノアルヲ許サナイノ

デアリマスカラ、俘虜モ亦此ノ趣旨ニ鑑ミ、大ニ之ヲ活用セララル

0980.

豫注意ヲ蒙ルニス

新任俘虜收容  
所長ニ與フル

陸軍大臣訓示

(昭和十七年六月二十五日)  
於 陸軍省

諸官此ノ度任ヲ俘虜收容所長ニ受ケ近ク夫々現地ニ  
赴カントスルハ予ノ最モ忻快トスル所ナリ

抑我國ハ俘虜ニ對スル觀念上其ノ取扱ニ於テモ歐米  
各國ト自ラ相異ルモノアリ諸官ハ俘虜ノ處理ニ方リ  
テハ固ヨリ諸條規ニ遵由シ之カ道正ヲ期シ公正ナル  
帝國ノ態度ヲ如實ニ中外ニ顯揚セサルヘカラスト雖  
モ他方人道ニ反セサル限り嚴重ニ之ヲ取締リ且一日  
ト雖モ無爲徒食セシムルコトナク其ノ勞力特技ヲ我  
カ生産擴充ニ活用スル等總力ヲ舉ケテ大東亞戰爭遂  
行ニ資センコトヲ努ムハシ尙此ノ際諸官ハ任地ノ特

性ニ鑑ミ特ニ俘虜ノ處置ヲ通シテ現地民衆ニ對シ大  
 和民族ノ優秀性ヲ體得セシムルト共ニ皇恩鴻大ニシ  
 テ日本臣民タルコト眞ニ無上ノ光榮タルヲ感銘セシ  
 ムル如ク努ムルヲ要ス  
 諸官宜シク敍上ノ趣旨ニ鑑ミ實務ノ重大ナルヲ自覺  
 シ部下ノ監督ヲ嚴正ニシ粉骨碎身以テ其ノ任ヲ完ウ  
 セシコトヲ期スヘシ

昭和十七年六月二十五日

陸軍大臣 東 條 英 機

第三 俘虜收容所編成

一 六月十日軍令陸甲第四一號ヲ以テ朝鮮、臺灣俘虜收容所臨時編成要領ヲ制定シ之カ施行ヲ命セラル

初代俘虜收容所長左ノ如シ

朝鮮俘虜收容所長 陸軍大佐 野口 謙

臺灣俘虜收容所長 陸軍大佐 中野 準 一

二 六月二十七日軍令陸甲第四五號ヲ以テ泰、馬來、比島、爪哇、「ボルネオ」俘虜收容所臨時編成要領ヲ制定シ之カ施行ヲ命セラル  
初代俘虜收容所長左ノ如シ

泰 俘虜收容所長 陸軍少將 佐々木 誠

馬來 同 福榮 貞平

比島 同 森本 伊市郎

爪哇 同 齋藤 正銳

「ボルネオ」同 陸軍少佐 菅 辰次



第四 俘虜ニ關スル規定

一 五月二十日俘虜收容所備人ノ給與ニ關スル件左記ノ通り定メラル  
陸亞密第四九五號

俘虜收容所備人ノ給與ニ關スル件

一 俘虜ノ監視ニ任ゼシムベキ備人ノ給與ハ次ノ通り定メラル

一 糧食官給、被服貸與、官々居住施設ニ收容シ給料ハ戰時増給ヲ

含ム月額トシ初給額ニ付テハ全員一律ニ朝鮮、臺灣内ニ在リテハ

三十圓戰地勤務者ハ五十圓トス

一 其ノ他ノ給與ハ總テ當該地ニ在ル一般備人ニ同シ但シ居墜夜食料

ヲ給セス

一 爾後ノ昇給其ノ他ニ付テハ別ニ示ス

第五 重要往復文書

米國政府ヨリ俘虜將校ニ對スル俸給支給方法ニ關シ左ノ通申入アリ

壹第三一〇號  
條三普通合第八三五號

昭和十七年五月二十日

外務次官

陸軍次官 殿

米國政府ノ俘虜將校俸給特別協定締結方申入ノ件

本件ニ關シ今般米國ノ利益代表タル在京瑞西國公使ヨリ別紙ノ通申出  
アリタルニ付委曲右ニテ御知悉ノ上貴見何分儀御同示相成度

本信送付先 陸軍省、海軍省、俘虜情報局

0365

五月九日附在京瑞西國公使來翰譯文

以書翰啓上致候陳者本使ハ貴大臣ニ對シ獨逸國政府ハ同國內ニ收容セ  
ラシ居ル米國俘虜將校ニ支給サルハキ俸給ニ關シ何等カ提案提示方米  
國政府ニ要求シタルコトヲ御通報申上クルト共ニ米國政府ハ帝國政府  
カ如何ナル方法ニ於テ壽府俘虜條約第二十三條並ニ第二十四條ヲ適用  
セシトスルカヲ承知致度希望シ居ルコトヲ並ニ御傳達申上クルヲ光榮  
ヲ有シ候

米國政府ハ本件ニ關シ帝國政府ニ對シ左ノ提案ヲ爲シ居リ候  
米國政府ハ俘虜將校ニ對シ俘虜捕獲國カ支拂ツヘキ俸給ニ關スル壽府  
條約第二十三條及第二十四條ニ依リ將校ニ對スル支拂換算率ヲ相互條  
件ノ下ニ一弗四圓トスヘキコトヲ提案ス

一 陸軍中尉又ハ少尉、陸軍准尉、陸軍准士官、海軍中尉、海軍少尉、  
一等准尉、海軍准士官、海軍陸戰隊所屬海軍中尉及少尉、海軍一等  
准尉、海軍准士官及米國沿岸防備隊又ハ米國公衆衛生隊中ノ同階級  
ノ者並ニ日本軍隊ニ於ケル右階級相當者ハ月額十五弗又ハ六十圓ヲ

支給サル

三陸軍大尉、海軍大尉、海軍陸戦隊大尉及米國沿岸防備隊又ハ米國公衆衛生隊中ノ同階級者竝ニ日本軍隊ニ於ケル右階級相當者ハ月額二十弗圓又ハ百圓ヲ支給サル

四陸軍少佐以上、海軍少佐以上、海軍陸戦隊少佐以上及米國沿岸防備隊又ハ米國公衆衛生隊中ノ同階級者竝ニ日本軍隊ニ於ケル右階級相當者ハ月額三十五弗又ハ百四十圓ヲ支給サル

前記給與ハ俘虜收容所ニ於テ配付セララルル食糧ノ外ニ與ヘラルルモノニシテ俸給全額ヨリ前記給與ヲ差引キタル殘額ハ俘虜收容所屬國ヨリ俘虜將校ノ家族ニ分割支拂ハルハシ

本件米國政府提案ニ對スル貴國政府ノ諾否伺ヒ旁本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

右ニ對シ左ノ通り回答セリ

陸亞普第四八五號

米國政府申入ノ俘虜將校俸給支給方法ニ關スル件

昭和十七年六月二十三日

陸軍次官

外務次官殿

條三普通合第八二五號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件ハ左記ヲ條件トシ之  
ニ應スルモ差支ハナキ旨回答相成度

記

一 糧食費、被服費及日用品費ハ自辦トス

註 中、少尉、准士官ニ給スル月額六十圓ヲ以テスルモ右諸費ヲ

自辦シテ且相當ノ小遣金ヲ剩シ得ル見込ナリ

ニ英國（加奈陀、濠州ヲ含ム）和蘭俘虜將校ニ對スル俸給支拂モ本支

給方法ニ據ルコト

三 本支給方法ハ相互的トセス帝國ニ於テ一方的ニ實施スヘキコト  
 四 本支給方法ニ據リ支給スル給與額ハ戰爭終了後千九百七年陸戰ノ法  
 規慣例ニ關スル條約及俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十  
 七日ノ條約ニ基キ敵國政府ヨリ償還セラルヘキモノト諒解ス  
 追テ俘虜タル將校ノ家族ニシテ帝國領土又ハ占領地内ニ居住スル  
 者ニ對スル敵國政府ヨリノ家族渡停給ノ送金ニ關シテハ便宜ヲ與  
 フル用意アリ

第六 俘虜ノ收容移動

一 善通寺俘虜收容所

(一) 收容人員四〇一名 (六月十日現在)

(内 譯)

0480

非軍人	和 海軍	新 西 蘭 陸 軍	濠 空 軍	英 空 軍	米		海軍	陸軍	種別	計
					陸軍	海軍				
	二	〇	二	一	一	一	〇	一	將校	
	〇	〇	〇	〇	一	一	〇	一	下士	
	〇	四	三	〇	〇	〇	〇	〇	兵	
五	二	四	五	一	二	二	〇	二		

(二) 前號月報以後ノ移動情況

1. 五月十八日米國下士官八、同兵六、ヲ横須賀海軍警備隊ヨリ受領收容
2. 五月二十一日元青島米國領事館付無線通信手グリフィス、アーサー、  
ヲ解放米國大使館ニ護送シ同館員ニ交付
3. 五月三十日米國陸軍大尉一、米國海兵隊少尉一、全兵四、計六名ノ俘虜  
ヲ横須賀海軍警備隊ヨリ受領收容

二 上海俘虜收容所

(一) 收容人員一六一〇名 (六月九日現在)

(内 譯)

國籍		種別	將校	下士	兵	計
英	海軍		七	一一	四	二二
	陸軍		二	一	三	三
米	海軍		三六	二六八	三四六	六五〇
	陸軍			五		五



(二) 前號月報以後ノ移動情況

支	米		英	
	常人	船員	常人	船員
備人				
	七七九	九〇	二	三四
	八六九		三六	
	二五			二五

1. 五月二十九日元駐支英國大使館附通信技手七名ヲ第一次外交官交換要員トシテ解放シ上海憲兵隊ニ交付ス

2. 六月三日米國海軍下士官二名船員七名支那備人二十四名計六十二名ヲ上海陸隊ヨリ受領收容

3. 六月九日英艦ヘテルル號無線手一名負傷ノ爲「フランス」病院ニ入院中ノモノヲ收容

4. 六月九日米國海軍下士官五名ヲ第一次外交官交換要員トシテ解放シ上海憲兵隊ニ交付

0373

香港俘虜收容所

(一) 收容人員

九〇八四名 (六月二十日現在)

(内譯)

種別	英		和		支		印		其他	
	陸軍	海軍	義勇軍	海軍	義勇軍	陸軍	義勇軍	陸軍	義勇軍	非職員
將校	三〇六	一三九	八七	一	一		五九		八六	
下士	七四七	三二九	一六五	一五		九	一八三	一	二七九	
兵	一一九〇	四〇二	三六四	一二	七	八	一六三五	三	一六二四	
計	三二四三	八七〇	六一六	二八	八	八	一八七〇	四	一九七九	二七六

(二) 前月報以後ノ移動情況

1. 五月十五日孤軍營南收容所印度兵百名ヲ解放シ香港憲兵隊ニ交付
2. 五月二十二日覺士道訓練所印度兵二百名ヲ香港、九龍及國境地區警備要員トシテ渡部隊ニ百名ヲ永峯部隊ニ五〇名ヲ海老澤部隊ニ派遣
3. 五月二十二日孤軍營南收容所印度兵三百一名ヲ解放シ第二遣支艦隊司令部ニ交付
4. 五月二十八日覺士道訓練所印度兵百名ヲ川口部隊ニ派遣
5. 五月三十一日孤軍營南收容所印度兵百十名ヲ鐵道警備要員トシテ廣九鐵道警備隊ニ派遣
6. 六月五日軍後方施設警備並軍務補助ノ爲印度兵七百三十名ヲ解放波集團ニ交付

- 7. 六月六日常人俘虜葡人 J. J. マザノ 英人 J. ハーグリーフ 英人 E. ニュトン 三名ヲ俘虜ヨリ解放ス
- 8. 六月六日「パンコツクル」印度人獨立大會出席ノ爲印度兵のキラン 少佐以下四名ヲ派遣
- 9. 六月十五日孤軍營南收容所印度兵百五十名ヲ解放香港占領地總督部所管倉庫警備要員トシテ香港憲兵隊ニ交付
- 10. 死亡者 計十八名 内譯左ノ如シ

日	国籍	階級	氏名	病名
一二	印	下士官	テイライス、ラム	赤痢
一四	英	兵	S. スタンズビー	癩
一七	英	看護婦	S. ガツペイ	耳、心臓
一七	英	兵	R. W. B. ステフェンズ	赤痢
二一	英	下士官	H. レーシー	赤痢
二三	英	兵	G. ベツテンゲル	腸結症
二四	印	下士官	プラン、シレグ	赤痢

月 六					月					
一五	カ	五	三	三一	二八	二七	二六	二六	二六	二四
印	英	加	英	印	英	印	印	印	英	印
看守	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵
サッカー、シング	J・ロジャース	J・S・リットル	F・A・ジエニングス	ヘム、シング	J・H・ローレンツ	シリールラム、シング	ラムシング	ファツテ、モード	F・フエンリント	ナランジヤン、シング
結核	赤痢	消化器	腸炎	マラリヤ	マラリヤ	赤痢	貧血	腸炎	腸炎	マラリヤ

## 第七 俘虜ノ衛生

一 善通寺俘虜收容所ハ其ノ患者數概ネ二十五名内外ニシテ衛生状態良好ナリ

二 上海俘虜收容所ハ其ノ患者數概ネ二七〇名内外内榮養器病約五分ノ一、皮膚病七分ノ一ニシテ衛生状態概ネ良好ナリ

三 香港俘虜收容所ハ其ノ患者平均概ネ四百六十名内外ニシテ主要ナル病名及患者數ハ五月初旬ニ於テ腸チブス四名、マラリヤ一三名、脚氣一九名、急性腸炎九六名、嘔傷二〇六名ナリ

五月中旬マラリヤ一五名、脚氣三三名ニ増加セルヲ以テ收容所ハ脚氣ノ原因ヲビ多シク不足ニ基クモノトシ食糧中パン粉、生野菜、麥ヲ増加セル爲漸減ノ傾向ニアリ四月十日ヨリ六月十五日迄ノ死亡者三十名中脚氣五名、赤痢一〇名、マラリア六名ナリ

## 第八 俘虜勞役ニ関スル事項

## 一 善通寺俘虜收容所

自六月一日 狀況下スル  
至同二十日

六月九日ヨリ俘虜百五十一名ヲ大阪ニ分遣セリ其勞務ノ狀況左ノ如シ

## (1) 善通寺ニ於ケル狀況

(イ) 前月ニ引續キ大麻山開墾ヲ實施ス日々約七十名乃至八十名ヲ服  
役セシメアリ

(ロ) 善通寺師團經理部ノ業務ニ日々約十名ヲ服役セシメアリ

(ハ) 野菜栽培、養兔ニ逐次成果ヲ擧ゲツ、アリ殊ニ將校俘虜モ半自  
發的ニ之等ノ勞務ニ從事スルニ至レリ

## (2) 大阪ニ於ケル狀況

大阪停車場司令部、大阪碇泊場司令部等ノ荷役ニ從事セシメ又一  
部ヲ民間ニ於ケル船舶関係ノ勞務ニ服セシメタリ

民間ノ勞務ニ服務セシメシ場合俘虜ハ一般ニ眞面目ニシテ相當ノ  
 効果ヲ擧ゲシノミナラズ其附近ニ勤務スル日本勞務者ニ對シ多大  
 ノ刺戟ヲ與ヘ其作業能力ヲ向上シテ大ナル効果ヲ收ムルヲ得タリ

ニ上海俘虜收容所（自五月一日 狀況トス）  
 至同三十一日

左ノ勞役ニ服務セリ

(1) 建築作業

主トシテ厩取除キ作業及兵舎改造ノ作業トシ延人員一、八一五名ナ  
 リ

(2) 土木作業

道路工事、埋立工事、鐵條網作業、收容所内ノ齊地工事及農場ノ  
 開墾作業トシ總延人員二、六八五名ナリ

尙右ノ農場開墾作業ハ約八千坪ヲ完成シ一部ニ蔬菜類ヲ播種セリ

(3) 三八式野砲藥莢研磨作業

作業延人員三四七三名ニシテ完成數二、五四〇筒ナリ



三 香港俘虜收容所（自六月一日 狀況トス）  
至同二十日 狀況トス）

(1) 軍後方ノ勞務補助

六月五日軍後方施設ノ警備ト共ニ勞務補助ノ爲印度兵俘虜七三〇名ヲ波集團各部隊ニ交付セリ

(2) 飛行場工事

第二十三軍經理部九龍出張所ノ實施スル啓徳飛行場耐雨期設備工事ニ協力ノ爲六月十五日ヨリ毎日約二〇〇名ヲ香港島支部ヨリ服役セシメタリ（本工事ハ約二ヶ月ヲ要スル豫定ナリ）

四 軍部外ヨリノ俘虜勞務役請願ノ狀況

善道寺ヨリ大阪ニ分遣セル俘虜百五十一名ノ勞務ノ狀況ハ前記ノ如ク良好ナル効果ヲ收メタリ。其後軍部外ヨリ俘虜勞務役ニ關シ請願シ來レル主ナルモノ左ノ如シ

(1) 企 畫 院

將來鑛業、荷役及土木、建築ニ使用ス

差営リ三、五〇〇名ヲ以テ左ノ如ク重要港湾ノ荷役ヲ實施シ度シ

京濱地域

一、〇〇〇名

阪神

一、二〇〇名

北九州

一、〇〇〇名

北海道

三〇〇名

(2) 全日本勞務供給事業組合

各府縣共希望スルモ差営リ大阪ニ一、〇〇〇名ヲ以テ港湾ノ荷役ヲ

實施シ度シ

尙京濱地方ニモ成ルベク多致ヲ希望ス

(3) 大阪勞務供給事業組合

永續的ニ約一、〇〇〇名ヲ使用シ各方面ノ勞務力不足ヲ補ヒ度シ

(4) 大阪地區港湾運送業會荷役統制部

永續的ニ荷役ノ爲約五〇〇名ヲ使用シ度シ

(5) 東京府勞務報國會

差當リ約五〇〇名ヲ以テ東京港灣ノ荷役ニ使用シ度シ  
南方ヨリノ俘虜ノ輸送困難ナラハ善道寺ノ俘虜ノ一部ヲ使用シ得  
ル如ク希望ス

(6) 樺太廳

差當リ一三〇名ヲ農業及製紙作業ニ使用シ度シ

(7) 釜石鐵山

六〇〇名ヲ使用シ度シ

(8) 大阪鐵道局

成ルベク多數ヲ使用シ度シ

第九 俘虜郵便

俘虜ノ第一回發送郵便數左ノ如シ  
 (外交官交換船ニ搭載)

名宛國先	收容所名		合計
	香港上	海普通寺	
英	封 一四	三三七	一八二〇
加	封 四四七	五	五三〇
濠	封 一四	一五	一六〇
英	封 二五二	五	四一
葉	封 一〇五	一	一
新西蘭	封 一	七	八
グアム島	封 二七	二	二七
比島	封 二	二	四
支那	封 一五三	一五三	一五三
蘭印	封 二	二	四
印度	封 六三	一七二九	一七九二
合計	封 八八九	三五三	一二四二
合計	封 一八八〇	六	一九八六
合計	封 七六九	一六九七	二四六六

註 封ハ封書  
 葉ハ葉書  
 官ハ官廳宛通信

第十 敵國戦死傷者並行方不明者並關スル事項

收容所名	通報月日	国籍	戦死者数	戦傷者数	行方不明者数	確認者
上海	四一七	米	四九			ウエイ半島 米國海軍少醫中尉 G. W. ...
香港	五二九	英	二	一	五	パテレル號 艦長ホルキンホフ大尉
加	五一九	英	二六六	三五八	五五〇	
合計			四一三	五五七	五六七	

俘虜ニ對スル救恤狀況左ノ如シ

第十一 俘虜ノ救恤ニ關スル事項

俘虜救恤狀況一覽表

月日	寄贈者	被救恤者	品名	数量	記
六月六日	シヤパンタイム社	各收容所ニ在ル 俘虜一般	Tea, Flax, woolly	四九部	五月二十八日號
六月九日	カ	カ	カ	カ	六月四日號
六月三日	カ	カ	カ	カ	六月十一日號
六月六日	カ	カ	カ	カ	六月十八日號
六月九日	カ	カ	カ	カ	六月二十五日號

## 第十二 抑留非敵國員ニ關スル事項

## 一、外交官及在留民交換

外交官及在留民ノ第一次交換ハ左ノ通實施セラル

## (1) 交換ノ範圍

米州諸國ニ在ル帝國外交官及在留民一四六五名ト帝國内地外地及  
占領地域内ニ在ル米州關係外交官及在留民一五五二名ヲ交換ス

## (2) 交換ノ要領

(1) 帝國外交官及在留民ハ米國船グリツプスホルム號ニ乗船シ六月  
十九日紐育發（途中リオデジヤネイロニ寄港）交換地點ニ向ヘ  
ル旨情報アリ

(2) 帝國内地及外地ニ在ル米州關係外交官及在留民四三二名ハ淺間  
丸ニ乗船シ六月二十五日横濱發香港ニテ三七〇名、西貢ニテ一  
一四名ヲ乗船セシメ交換地點ニ向ヒ支那ニ在ル者六三六名ハ伊  
太利船コンテヴェルデ號ニ乗船シ六月二十九日上海發交換地點

ニ向ヘリ

(9) 交換地點

交換地點ハ葡領東亞弗利加ノ一商港ロレンソマルケスナリ

ニ在外(敵國及國交斷絶國)日本人抑留狀況別表ノ如シ



別表

抑留 國	在留邦人数	抑留人員数	抑留 状 況 ノ 概 要
米 國	九萬七千	三萬九千	糧食、衛生狀況其他ノ待遇ハ良好ナリ家族トノ通信ニ制限ナク抑留者ニ對スル訪問ハ一週一回許可セラレ 上記ノ在留邦人ノ外米國籍ヲ有スル第二世ハ三萬二千人アリ 在留邦人全部ヲ米國へ移管セリ
巴 奈 馬	三〇〇	〇	同 右
コスタリカ	二〇〇	〇	同 右
玖 瑪	一〇〇〇	九	狀況詳報ナク不明ナリ
英 本 國	二萬七	七	抑留所ハマン島海岸地ニ在ル高等下宿ナリ糧食ハ質量共ニ良好被服ノ給與モ充分通信ハ英本國宛無制限ナク 狀況詳報ナク不明ナリ
加 奈 陀	八〇〇九	一五八	好過ヲ受ケ不平ナキ模様ナリ
南 阿 聯 邦	一一	〇	抑留セラレアルハ「ゲニヤ」ノ在留邦人ナリ 「ウガンダ」「アンジル」ノ在留者五名ハ收容セラレ居ラス 馬來昭南島ヨリ引致セルニ六〇〇「ビルマ」ヨリノ一 四九「セイロン」ヨリノ一七ヲ含ム 收容所ハ天幕舎ナリ食事ハ量的ニハ充分ナルモ質的ニハ不 充分ナリ邦人ハ概ネ満足シアリ 印及英領ボルネオヨリ引致セル九五五ニユーカレドニ アヨリノ三六ニユーカレドヨリノニセヲ含ム 設備糧食良好酒保アリ自費的勞働ニ服センメアリ トンガフィジーヨリ送致セラレタルモノナリ設備良好
英領東阿弗利加	九	四	
印 印	三〇〇	二六〇	
淡 州	一五〇〇	七六七	
新 西 蘭		四	三三六ヲ淡州へ移送
ニユーカレドニア	一五〇〇	〇	二七ヲ淡州へ移送
ニユーブリデス	三六	〇	
メキシコ	六〇〇〇	一〇〇〇	メキシコ市ニ抑留抑留者中九割ハ自活セシメラレアリ
コロンビヤ	三〇〇	〇	
ヴェネズエラ	四〇	〇	
エクアドル	二〇	一五	上記抑留者ハ引揚ヲ強要セラレ四月上旬米國へ出發セリ
ペル	一五〇〇	〇	一〇〇〇余ヲ追放シ米國へ送致セリ
ボリヴァ	六〇〇	〇	
パラガイ	三〇〇	〇	
ウルガイ	七〇	〇	大部ハ開戦前アルゼンチンへ引揚
ブラジル	二〇〇	七九	狀況不明
計	一五八、二七六	一、三三〇	

三、帝國占領地ニ於ケル敵國人抑留狀況

(前月報後判明セシ分)

抑留地	米國人	英國人	和蘭人	其他	計
香港	三一	二四八五	五二	一一	二八六〇
昭南島		二五五三			二五五三
クマランツール	一	一九		五	二五
メヤトラ	一四	六五三	九八七二	七	一〇、五四六
ビルマ	一	五〇	一		五二
計	三二七	五七六〇	九九二五	二四	一六〇三六

第十三 會計經理ニ關スル事項

五月分臨時軍事費受拂額

五月分殘高 九、二三四、四一〇圓

六月分 受 一〇、四〇〇、〇〇〇

六月分 拂 一二、六七五、三〇〇

六月分殘高 六、九五九、一一〇